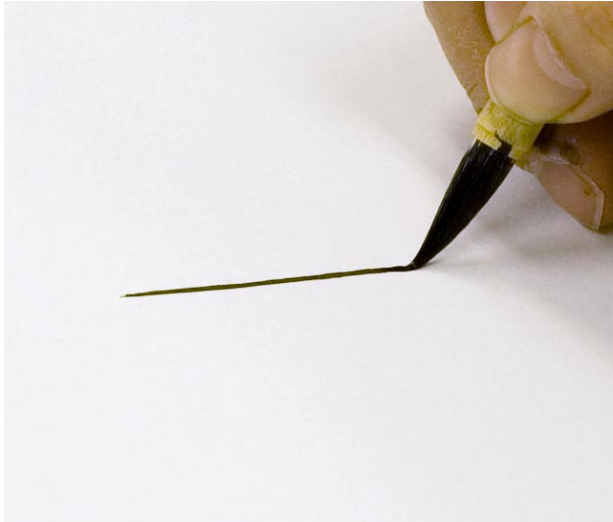




鉄線描

てっせんびょう



概要

鉄線描（てっせんびょう）は、鉄の針金のような線という意味で、肥瘦のない一定の太さの硬い線です。日本画の線描の中でも代表的な線です。

日本画において「線」は、絵画の骨格であり重要な要素です。西洋画の陰影での表現に対して、日本画では対象の形を示す輪郭線による表現が主体です。毛筆で描く線は、太い、細い、長い、短い、鋭い、柔らかい、早い、遅い、かすれ、滲み、さまざまな表情が生まれます。

鉄線描は、彩色する前の骨描きによく用いられます。使用する筆は、穂先が利く削用筆（さくようふで）などの線描筆が適しています。筆に墨や絵具を含ませて、絵皿の縁で穂先を少ししごいて整えます。かすれがなく、ゆっくり一定の速度、一様な巾で運筆（うんぴつ：筆づかいや筆の運び）します。

古典作品の中で、鉄線描は仏画や肖像画等に多く用いられました。その代表的な遺例に法隆寺金堂の壁画があります。輪郭線を弁柄（べんがら）と思われる紅色で描かれた菩薩は、厳格な中にも優美さが表現されています。

日本画の線描には鉄線描の他に、抑揚のある「肥瘦線（ひそうせん）」、細くてしなやかな「遊糸線（ゆうしせん）」、琴の弦のような細くて張りのある「琴弦線（きんげんせん）」などがあります。

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

数字